

E-26 現代における親子関係についての調査研究 (第1報)

—高校生段階での親子の意識のズレを中心にして—

梶山女学園大家政 ○梶山 正弘
長谷川照恭

1. 戦後の家族制度の変革によって家族生活のなかに一定の変化がみられる現在、この研究は日本の家族生活のどこに問題があり、いかにそれを解決すべきかという点を主題として、今回は、高校生段階に目を向け、変化しつつある親子関係、特に親子の意識のズレの面を少しでも明らかにすることを目的とした。

2. この研究は、男子高校生100名、女子高校生100名とその父母を対象として、実態調査による研究方法をとった。

3. その結果、①親子の意見のくい違いは、勉強・進路などの教育の問題、礼儀作法・言葉使いなどのしつけの問題から、家事手伝い・食事・テレビ番組などの生活の問題にいたるまで、子どもをとりまくあらゆる場面でみられる。その原因は主に時代の変化などによるといえるが、直接的には親は子の側に問題があるとし、子は親の側に責任があるとする。

②子の男女の差は基本的にはみられないが、特に、男子が親から自主・独立を、女子が親との話し合いを強調する点に違いがみられる。

③父母の間では、父が子と話し合う時間が少ないにもかかわらず、重要問題の決定に大きな影響力を持つため、母よりも子どもとの間に大きなギャップがみられる。

④このように親子の間には、意識のズレがかなり大きく存在しているが、親は子どもを理解しようと努め、子は親の立場を考えながら責任を持った行動でこれに応えようと努力する。以上、①～④の傾向がみられる。